

1. 広島と長崎

・原子爆弾が広島と長崎におちた日に毎年必ずテレビで生放送で式典をやっているのは、
 していませんのけれど、見たことは12回しか見たことがないです。しかし、祖母は毎年見ています。
 やはり戦争中を生きた人だからなのかなと思います。おそらく、御祖母様は、自分が毎年見る姿を、孫の世代の皆
 さんにも見せておきたい、そういう思いもあると思います。
 私も中学校の修学旅行で広島へ行った事がある。事前学習として、
 核兵器について深く学んだ。原爆ドームや資料館を見て、核兵器の
 恐ろしさを知った。原爆を落とされた国は日本だけ。核兵器の恐ろしさを
 一番よく知っている日本が、もっと核廃止を主張しても良いと思う。

私の親(皆さんの祖父母)の世
 代の人生は戦争体験抜きに語れ
 ません。
 日本は核兵器廃絶の先頭に立つ
 べきです。しかし、残念ながら
 このザマです。それを直すため
 には、まず、私たちみんなが、
 広島長崎から学ぶことが必要だ
 と思います。

中学生の頃、広島と京都へ行きましたが、実際の原子爆弾の大きさを
 見て、その大きさを想像するのは、その大きさを広範囲の被害をあたえる事にとて驚いた事
 を思い出しています。DVDを見て、科学者に期待はできないと言っていました。それは何と大きな力を
 科学者や研究者は持っているのだと思います。

十数万人を殺傷した
 兵器にしては本当に
 小さいですね。
 それぞれが貴重な
 体験をしたと思いま
 す。いつまでも覚え
 ておいてください！
 講義でもお話したように、覚
 えておけばいいということでも
 ありません。しかし、覚えてお
 かなければお話になりません。

広島を言われた瞬間、原爆ドームを見て、涙が止まらなくて、涙が止まらなくて、涙が止まらなくて、
 の木葉を見て、涙が止まらなくて、涙が止まらなくて、涙が止まらなくて、
 私は、広島長崎の原爆が投下された事を覚えていませんでした。
 小学生の頃に習ったけど、それはテストに出るからという義務感で
 覚えていると思います。私たちは日本人であつて、決して風化させては
 いけない。後世に後継者がいなくなるとはならないものだと感じています。

1945年の8月6日と8月9日は、
 しっかり覚えておいてください。
 そして、まだ行ったことがな
 い人は、学生のうちに広島と長
 崎へ行ってください!!!私
 もまた広島と長崎に行こうと思
 います。

広島長崎で起きた日付を私は覚えていなかった、たの
 で本からは忘れないで覚えておこうと思いました。

原子力に関しては私自身、学ばないで済ませたいと思いましたが、科学者に任せたい、自分自身
 者には任せられない。ということではやはり私自身に知らなければいけない。「火事かよ様なことを学ぶ」とい
 機会が。今の教育では不十分すぎるくらいです。おそらく、大人が勉強することの意味を理解していないからです。
 しかし、もう皆さんは自分が何を勉強するか自分で選べます。ぜひ積極的に自分から勉強してほしいです!

2. iPS細胞

iPS細胞は人々に技術の進歩を与える一方、費用とそれらとを担い、これになるまでにはかなりのコストがかかる。
 iPS細胞はすごい技術だと思いましたが、キメラマウスのような動物がつくられるのであつたら、発見されなければならぬと思っていました。
 iPS細胞は夢の細胞だといわれているが、使う方によっては人の命が全く価値のない
 ものになってしまうのではないかと不安に思っています。
 私は3年前にリベラルアーツセミナーの講義内でES、iPS細胞について発表しました。
 発表する前に、iPS細胞について勉強しました。勉強した後、その細胞が実現し
 たら、何が出来るのか、自分にどんな利益があるのか、というメリットばかりに目がいき、
 デメリットについても知りませんでした。やはり利益の方にばかり目がいき、
 今回のセミナーの中、山中教授のインタビューを見、
 新しいものを作るときには、それによって起る悪影響を想定してそれに備えておく
 べきかということも考える必要がある、と驚かされた。と驚かされた。と驚かされた。
 を持っている。求められている。と驚かされた。と驚かされた。と驚かされた。
 少し話から外れが、実用化されてから騒ぎか、と驚かされた。と驚かされた。と驚かされた。

いい指摘です。
 何できちんと教え
 ないのか。一つは、
 まず、iPS細胞では、細胞
 の塊はできるけど、臓
 器(例えば心臓)はでき
 ません。キメラは、他の
 動物に患者の心臓を作っ
 てもらう技術です。
 新しい技術が、多くの人の命
 や生き方に役立つものであれば
 開発すべきでしょう。ただ、指
 摘があるように、原発と同様に、
 その利益を受け取るのであれば、
 その問題点にも目を向けて、皆
 で考える必要がある、というこ
 とではないでしょうか。

知識がないまま意見を持たせようとする、そんな風潮があるように私も思います。まずは知識ではない
 でしょうか。

4. 人を傷つける知識

私、「学ぶことは人を傷つける能力を身につけること」という言葉を聞いて、確かにと思う

こともあったけど、これは学ぶとは結局なんだろうという気持ちにもなりました。

今更、私には学ぶことが大切だと言わせたけど、この言葉を聞いて学ぶということが

少し分らなくなりました。

私たちが様々な知識を活用しながら快適な生活をしている以上、知識を捨てることはできません。科学者がモラルも学ぶべきであると皆さんが思ったように、学ぶ私たちもそうすべきです。そして、自分の知識を悪用させないように、また、お互いに暴走しないように、もっと勉強していくことが解決策なのではないかと私は思っています。

それに知らないことは罪、と考えていて様々なことを知りたいと思っただけで

知ることと罪をおかしてしまう危険もあるように、やはり自分の行動には責任をもたないといけないなと感じた。

「学ぶことは人を傷つける能力を身につけること」と聞き、学ぶために大学に入ったのに学んだことを悪用するのを止めることはできないのかと思いました。

学ぶことで人を傷つける能力を得ているとわかった瞬間、恐しく感じました。誰かに知識を共有するのは正しいことではあるが、不安に感じました。

これは、原爆を作った科学者たちと私たちとがそれほど違わない立場であるという指摘です。科学者を皆さんはどう思いましたか？

素晴らしいまとめです！知識をベースにした快適な社会に住む私たち自身の責任として考えていくべきではないでしょうか。

5. 湯川秀樹

湯川氏の生涯を通じて訴えていたことは本当に心にずっと突き刺さり、たがしります。

湯川秀樹については日本第一号のノーベル賞受賞者だったり中間子論提唱は聞いたことがありました。しかし核廃絶運動もしていたこと知りませんでした。

原爆のテレビを見て、最後まで見ていて、最終的に「化学者はバカだな。」と思っしまいました。かきすまで、根本的な原爆のまけんさをしろうとしていな、いなんてどうしようもない思いました。

核を持つ国はたくさんある。その核を全部なくすることも不可能かもしれませんが、各国が核爆弾を使わなければ平和な世界がくる

自分の声をあげて核心に返ろうという考えは当たり前だけに、本当に素晴らしいと感じました。でも世界から核をなくするのは本当に難しいと思っ。でも平和のため核を0にしたいです。

湯川氏の訴えが聞き入れられなかったことを、とても悲しく思っます。

これからの世界では、常に核におびえながら生きていかなければならないのでしょうか。

湯川秀樹氏は核の危険性を知らず科学者が「国境を越えていけるべきだ」と考えていたが、1975年ワシントン会議に参加したうちの1人が核と共存をすることを考えていた人もいる。もしも国民や国家が核に対して知識ををつけ危険性を知らなければやめたのだろうか。

高校生の頃に「ビキニ環境」について学ばました。私たちが知っている「プシラヤ 女性用の水着のビキニ」がその事故から来ていることを知り、凄いの何気なく知、ていることも、悲しい背景を持っているのを感じました。原爆投下直後の映像を見るときは涙が出そうになり、

原爆に72の語が出てきたので、「時と刻の解釈の違」に72を思っ出しました。時と刻は残酷なものに記されていますが、3X10の2乗は「結果的に原爆が日本を救った」ということ。二核を知らずには「おれん」と思っました。色々な事を知らず今になって「それはおかしい？」と思っようになりた。

ぜひ、湯川秀樹の名前と、彼の行ったことを覚えておきましょう！

皮肉にも、科学者の駄目さ加減がわかったわけですが、それも記憶すべきだと思っます。

個人的には、この三つのコメントは、やや残念です。核兵器をなくすることが難しい、と思った時点で核抑止論に取り込まれています。湯川が言ったように、簡単な話なのですよ！

湯川秀樹氏の言っていることは正しいと思っ。だが、実現させるのはとても大変なことだと思っ。

いいえ、皆さんが本当に望めば、核はなくなります。

やめるはずですし、そうしてやめさせるべきです。知っていて核開発を推進するとしたら、それは正気ではないと思っます。湯川朝永宣言への署名を呼びかけるときに、広島長崎の映像を見て、科学者たちが初めて署名する気になったのは、科学者たちの良心が当りにならないことを示したと同時に、知っていればやらない、という希望でもあります。

広島・長崎を含む原爆被害を、もっと皆で勉強しましょう！

大人の特徴は、いい訳がうまいことです。自分も言い訳がどんどん上手になって、と悲しくなります。

他の人の犠牲を正当化するような言い訳には、いつも厳しい目を向けておきたいと思っます。

